祝　辞

財団法人静岡県体育協会
会長　斉　藤　斗志二

NPO法人磐田市体育協会の創立60周年にあたり、協会の創設当時からこれまでの足跡を振り返り、新しい歩みのための記念誌を発刊することは、誠に意義深く心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和24年赤松市長を初代会長として創設以来、近隣町村の合併を重ねながら、今日まで着実にスポーツの振興と発展に寄与されてこられました。

平成13年には、全国でも早々に「特定非営利活動法人格」を取得し、NPO法人磐田市体育協会として、県下初の自立した協会運営の在り方を実証していただきました。それと同時期に開始された、地域還元を目的とした「ポイントエコマネー」のシステム導入は、スポーツボランティア活動の必要性と意義を高く評価した画期的なスポーツ振興の手段となり、併せて地域振興につなげた功績は特筆すべきものであります。

更に、平成17年の磐南５市町村の合併では、磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村の各地域の伝統的なスポーツイベントの特色を生かしながらも、スポーツの斬新な企画が求められている今日、新たな行事として全市町を巻き込んだ「いかまい磐田100キロウォーク」をいち早く立ち上げ、市内外に磐田市を広報すると共に、生涯スポーツの重要性を住民に提供していただいた取組みは、サッカーJリーグ「ジュビロ磐田」のホームタウンにふさわしく、「サッカーのまち磐田・スポーツのまち磐田」として貴協会の活力を反映させるものであります。

これらは、貴協会の創設当初から脈々と受け継がれている地域重視の献身的な取組みや、後継者の連携の素晴らしさを物語るものであり、これからの貴協会の成長の可能性を期待するものでもあります。

終わりに、貴協会が現杉山元会長を筆頭に、磐田市にとどまらず、西部地域体育協会のまとめ役として、今後ともスポーツの振興にご尽力いただくことを願ってやみません。60周年記念を機に、益々のご発展を祈念し、発刊に寄せる祝辞といたします。

祝　辞

磐田市長
渡　部　　修

磐田市体育協会が創立60周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことは、大変意義深いことであり、心からお祝いを申し上げます。

磐田市は、子どもから高齢者まですべての市民が様々なスポーツに親しみ、健康増進・体力向上や地域の活性化を目的に「スポーツ交流健康都市宣言」を行い、「スポーツのまちづくり」を推進しています。特に小中学校の校庭の芝生化、スポーツによる健康づくり、全日本高等学校女子サッカー選手権大会を毎年開催するなど、各種スポーツ大会等の開催や誘致などを積極的に取り組んでいます。また、サッカーJリーグ「ジュビロ磐田」のホームタウンとしても知られています。

貴協会は、平成13年に体育協会としては全国で４番目にNPOを取得され、法人化の利点を最大限に活用しつつ、スポーツの振興を図り、市民の健康増進に役立つ体育協会となるよう努めてこられました。また平成17年の市町村合併にともない５つの体育協会が合併して更なるスケールアップがされました。平成19年には全国で最初のISO9001、ISO14001認証を取得。平成20年には磐田市体育施設指定管理者として認定され、現在では30箇所の公共体育施設を良好に管理していただいています。

さらに、「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」「車椅子ツインバスケットボール大会」「スポーツ指導者養成講座」「いかまい磐田100キロウォーク」など特色あるスポーツイベントを積極的に展開し、磐田市のスポーツ振興に重要な役割を果たしていただいています。

今後も市のパートナーとして、より一層のご支援とご協力をお願いしたいと思います。

結びに、本誌編さんにあたりご尽力された方々に対して深く感謝を申し上げるとともに、磐田市体育協会のますますのご発展を祈念してお祝いの言葉とします。

祝　辞

磐田市議会
議長　八　木　啓　仁

ＮＰＯ法人磐田市体育協会が、栄誉ある創立60周年を迎えられたこと、また更なる飛躍に向けての記念誌を発刊されることについて、たいへん意義深く、市議会を代表して心よりお慶びを申し上げます。

厳しい経済・社会環境の変遷の中で、ゆるぎない実績のもと今日では市の体育施設指定管理者として多くの施設の管理運営に、市民の気持ちに立って日々ご努力されていることに、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。文武において健康な体には健康な精神が宿るとは言いますが、特に昨今の貴協会の振興と活動はめざましく、今年で13回目を迎える「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」も、毎回Ｊ１ジュビロ磐田の選手を迎え、今では参加者が約５千人に上っています。また５年目になる「いかまい磐田100キロウォーク」、そして静岡駿府公園を中心に行われる「静岡県市町村対抗駅伝競走大会」は、陸上競技協会と連携をとる中で、選手の育成に努め市の代表としての奮起により、常に立派な成績をおさめられてきました。これらは多くの市民に共感を与え、同じ目標に向かって年齢や地域を越えた選手間の関わりに、大きく役立っているものと確信を致しております。

磐田市と致しましても、平成17年磐田市・福田町・竜洋町・豊田町・豊岡村の１市３町１村合併後、昨年まで確立されていなかった都市宣言を制定し、「スポーツ交流健康都市」を目指して努力していくこととなりました。そういった意味合いにおいても、広く市民が、いつでもどこでも気軽にスポーツに親しめる条件整備に努力すると共に、スポーツに対する意識や、体位向上と競技力の高揚、ひいては身も心も健康が図られることがなによりであります。

今後とも貴協会と一体となって、スポーツの普及・啓発、ひいてはより健康な町づくりを目指して、更に発展させていく所存です。貴協会のなお一層のご活躍ご発展を心からご祈念申し上げまして、お祝いのご挨拶とさせて頂きます。

祝　辞

磐田市教育委員会
教育長　飯　田　正　人

ＮＰＯ法人磐田市体育協会創立60周年を記念して記念誌を発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

同体育協会は昭和24年創立とお聞きしています。60年の長い期間にわたり、磐田市の社会体育の充実とスポーツの振興にご尽力されてきましたことに、心から敬意を表したいと存じます。

磐田市民の皆さんのスポーツに対する思いは、大変熱いものがあり、そのことが同体育協会の様々な活動に反映されてきていると感じています。かつて、磐田市内の高等学校にはプールが無く、防火用水槽を自分たちの手で造り、そこで水泳の練習を行ったと聞いたことがあります。水泳競技に対する市民の皆さんの思い入れは人一倍強いものがあり、今日でも各年齢層において、県大会や全国大会で活躍する選手がみられているところです。その他の競技においても、同体育協会の委員の皆さんや多くの関係する団体の皆さんの長年にわたるご指導･ご支援により、昨年度の北京オリンピックで活躍された卓球の水谷隼選手をはじめ、様々な競技で活躍する方々を輩出しています。

さて、磐田市体育協会がＮＰＯ法人となったのは平成13年のことでした。その後、平成17年の市町村合併により、１市３町１村の体育協会が統合し、新磐田市の体育協会としての活動が始まりました。また、平成19年にはＩＳＯ9001、ＩＳＯ14001を認証取得し活動が進められています。同体育協会も世の中の大きな動きの中で、少しずつ変化してきていることを感じます。現在、同体育協会は磐田市体育施設の指定管理者として指定され、市内30施設の管理運営を行っていて、市民の皆さんに親しまれ、利用し易い施設管理を目指しているとお聞きしています。

同体育協会の実施事業としては、静岡県市町村対抗駅伝競技大会、ジュビロ磐田メモリアルマラソン、車椅子ツインバスケットボール大会、いかまい磐田100キロウォーク、その他各種スポーツ教室、小中学生対象の各種大会があります。各事業ともに年々盛んになってきていて市民の皆さんのスポーツへの関心の高さが伺えると同時に、同体育協会の委員の皆さんの献身的な運営によるところが大きいと感じる次第です。

結びに、ＮＰＯ法人磐田市体育協会の益々の発展と市民の皆さんがこれからもスポーツを愛し、健康に過ごされますことを祈念申し上げ、発刊の祝辞とさせていただきます。